Architectural Institute of Japan

日本建築学会大会学術講演梗概集
（北陸） 2010年 9 月

ケアハウスとコレクティブハウジングにおける高齢者の居住実態の差異

正会員 ○竹原 弥里*
同 加藤 彰一**
同 毛利 志保***

高齢者 ケアハウス コレクティブハウジング
生活実態 居室利用

Abstract

This study discusses conditions of habitation of the elderly in a care house and a collective housing. It aims to clarify the difference of the habitation by understanding the tenant's social behavior and their room use. Moreover, it focuses on common space provisions and facility management styles.

1．研究の背景と目的

かつての高齢期での暮らしの場は施設か在宅という二択であったが、高齢者住宅の整備が進められ、その類型は現在実に多様化しており、その形態の違いにより入居者の生活に受ける影響も非常に大きい。本研究では、入居者属性が類似しており、かつ運営や空間計画の異なる２つの居住形態を対象としている。そして、入居者の社会的行動と居室利用を調査し、その生活展開の差異を把握することで、両者の課題を明らかにすることを目的としている。

2．研究の方法

対象は、比較的自立した高齢者が入居しているケアハウスとコレクティブハウジングとした。前者は厚労省の管轄であり運営は施設側が行い、後者は国交省の管轄で住民が主体の運営である。両者において、表１に示す立地環境の似ている２事例を抽出し、表２のようなアンケート、ヒアリングおよび居室利用調査を行った。

3．調査結果

3-1 社会的行動の特性

ヒアリングをもとにしたアンケートにより比較・分析を行う。

①入居者同士の交友関係について

図３より、ケアハウスＡではおすそ分けや訪問しあう程度の友人数が多く、コレクティブＢでは世間話や一緒に外出をする程度の友人数が多いことが分かる。これらのことはケアハウスＡではサービスの提供により生活が共同化され、日常的な交流機会が多く創出されるため、関係を良好にしようという意欲が高く、また関係が親密化されやすくなるためであると言える。それに対しコレクティブＢでは外部の共

表１ 事例概要

	ケアハウスＡ	コレクティブハウジングＢ
開設年	平成７年	平成14年
所在地	豊橋市	豊橋市
形態	デイサービス併設型	多世代型（居住階で住み分け）
室数	27室（30名）	41戸（全体で86戸）
居室構成（面積はバルコニーを除く）	単身１R：24室（約24.5㎡） 夫婦 1DK：3室（約42㎡）	1DK,a 一体型：12戸（約46㎡） 1DK,b 独立型：12戸（約38.5㎡） 2DK ：17戸（約54㎡）
スタッフ数	12名	
その他特徴・立地環境等	スーパー徒歩10分、バス停徒歩10分、バス停～豊橋駅20分。自然に恵まれている。２層で構成され、主に上階に居室を配置。	スーパー徒歩15分、最寄駅徒歩20分、最寄駅～豊橋駅20分。自然に恵まれている。路地型の通路で、菜園がある。建替型公営コレクティブハウジング。
調査平均年齢	79歳	72.3歳
調査平均居住年数	6.0年	5.7年
調査男女比	男：13.3% 女：86.7%	男：40.0% 女：60.0%
調査要支援介護者	26.7%	25.9%

表２ 調査概要

	調査対象	調査内容
アンケート調査	A：15名 B：27戸	基本属性、交友関係、外出行動など
ヒアリング調査	A：15名 B：17戸	アンケートの事前調査 居室利用の補足調査
居室利用調査	A：12世帯 B：10世帯	居室平面図に家具等を記入

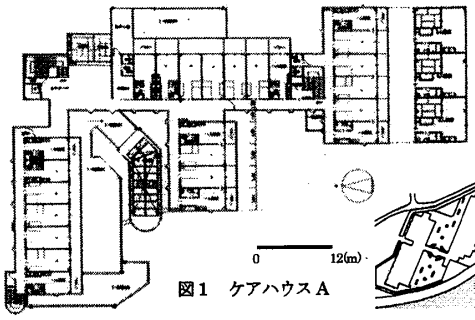

図１ ケアハウスＡ

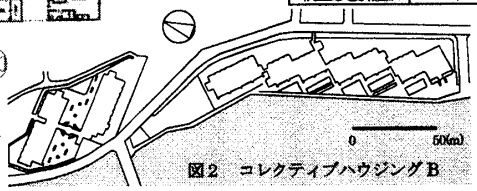

図２ コレクティブハウジングＢ

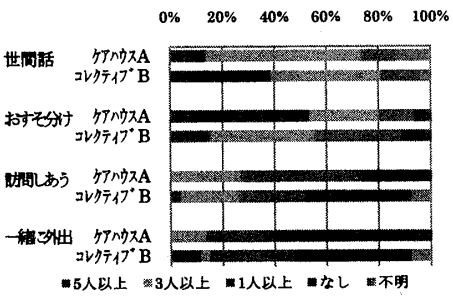

図３ 入居者同士の付き合いの程度ごとの友人数

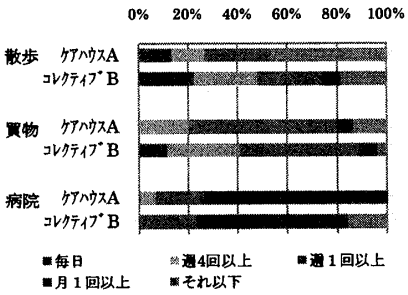

図４ 目的別の外出頻度

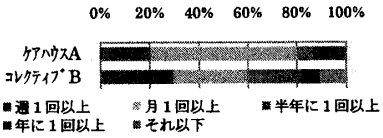

図５ 家族との交流頻度

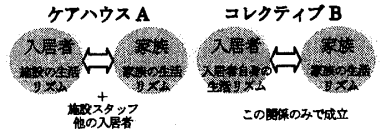

図６ 訪問における影響因子

A Study on Differences of Habitation Conditions of the Elderly in a Care House and a Collective Housing

TAKEHARA Misato, KATO Akikazu, MORI Shiho

NII-Electronic Library Service

Architectural Institute of Japan

用空間が豊かにつくられることで関係が拡がりやすく、外部での交流が多くなるものと考えられる。

②外出行動について

図 4 より、散歩・買い物の両方においてコレクティブ B の方が、外出頻度が多いことが分かる。これらのことは、ケアハウス A での食事サービスの提供により買物の必要性が低下し、買物の目的が趣味や散歩へと変化していることが要因として挙げられる。

③外部からの訪問について

ケアハウスAでは図 5 を参照すると、8 割程度が家族と定期的に交流しているが、その内週 1 回以上と頻繁な交流をしている人の割合は相対的にみると少ない。コレクティブ B で家族間の頻繁な交流をしている入居者は、訪問が気軽に日常の一部として行われている。ケアハウスAで図 6 のように訪問行為が行われるため、気軽さが損なわれると考えられる。

3-2 居室利用の実態

アンケート対象者の一部を対象とし、豊かな住まい方の指標として、ベッド上などの就寝の場や、テレビ前などの静養の場という日常生活に最低限必要な場の他に、表 3 に示すような入居者独自の付加的な場の数によって分析した。

表 3 によると付加的な場の数の平均はケアハウス A では 0.75 であり、1R の事例においてはほとんどの事例で場が創出されていない。コレクティブ B では 1.6 という倍以上の場が創出されており、コレクティブ B の方がより豊かな住まい方をしていると言える。その一方、面積がより広くかつ接地したテラスを有するケアハウスAの 1DK においては、2 事例とも 2 つ以上の場が創出されている。これらのことより、面積などの物的条件や、接地性や路地型といった住宅らしさの有無が場の創出に影響するものと考えられる。

図 7 に個別事例を示す。ケアハウスAの 1R 事例 A3 では家具が比較的少ないため 2 つの場の創出が可能となっていると考えられる。1DK 事例 A11 ではテラスを利用した園芸の場や日当たりの良い仕事の場が創出されている。また、健康維持を趣味・習慣としているコレクティブ B の事例 B1 ではトレーニングの場などの健康に関する場が 3 か所と多く創出されていた。その他のコレクティブ B の事例においても、趣味や習慣が表出した場が創出されている事例が多い。

6. まとめ

本研究により、入居者の社会的行動、及び居室利用の実態を把握し、その生活展開の差異を明らかにできた。

社会的行動では、ケアハウスは内部の豊かな人間関係は築きやすいが、やや内向的な生活になる一方、コレクティブハウジングでは、生活は個人によって多彩であるが、内部での親密な関係を生み出すのは難しいと言える。また居室利用において、ケアハウスに比べコレクティブハウジングは個人の趣味や習慣に応じた場が創出されやすいことが分かった。

これらの差異が表れたのは、運営主体が施設であるケアハウスでは日常生活の多くの点で生活が共同化されること、ケアハウスではコレクティブハウジングに比べると画一的で自由度の乏しい居室プランを有することなどが挙げられる。

ケアハウスにおいては日常的な外出を促し、訪問行為がされやすい建築・運営計画上の工夫、及び居室の住宅らしさや物的条件を高めることが必要であり、コレクティブハウジングでは、共用空間の充実化という建築計画上の工夫だけでなく、相互交流に対する意識を高めるようなサポート環境を整えることが必要であると言える。

表 3　付加的な場の事例

		事例	場の数	場の内容	場づくりの方法
ケアハウスA	1R	A1	1	訪問	イスの増設
		A2	1	訪問	イスの増設
		A3	2	訪問・身支度	イスの増設・鏡台とイス
		A4~10	なし		
	1DK	A11	3	訪問・仕事・園芸	イスの増設・机とイス・多くの植木鉢
		A12	2	訪問・園芸	イスの増設・多くの植木鉢
	平均		0.75		
コレクティブB	1DKa	B1	4	訪問・健康	健康用品・運動の場
		B2	2	祈り・園芸	仏壇と座布団・多くの植木鉢
		B3	1	訪問	イスの増設
		B4	1	訪問	イスの増設
	b	B5	2	訪問・園芸	イスの増設・多くの植木鉢
		B6	なし		
	2DK	B7	なし		
		B8	4	身支度・健康・俳句・園芸	鏡台・マッサージチェア・机とイス・多くの植木鉢と柵+菜園を活発に利用
		B9	1	園芸	菜園を活発に利用
		B10	1	訪問	イスの増設
	平均		1.6		

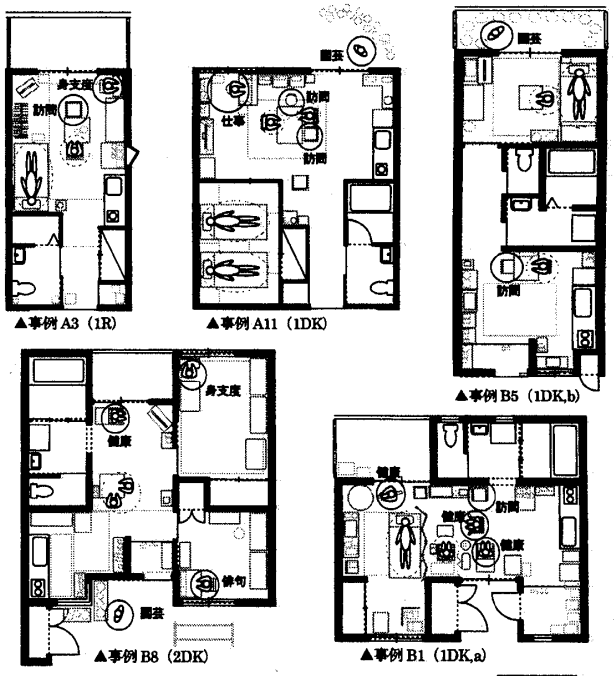

図 7　付加的な場の個別事例

参考文献

1) 伊佐地大輔、上野淳：ケアハウス居住者の生活展開と生活領域の拡がりに関する研究、日本建築学会計画系論文集　2002.7
2) 斉藤功子、西村一朗：軽費老人ホーム入所者の施設内外の交流と外出行動に関する調査研究、日本建築学会計画系論文集　1996.9

*　三重大学大学院工学研究科　博士前期課程
**　三重大学大学院工学研究科　教授・工博
***三重大学大学院工学研究科　助教・工博

* Graduate Student, Graduate School of Eng., Mie Univ.
** Prof., Graduate School of Eng., Mie Univ., Dr. Eng.
***Assistant Prof., Graduate School of Eng., Mie Univ., Dr. Eng.

NII-Electronic Library Service